

いいもりやまがきょうづか

飯盛山瓦経塚の再発見

—平安時代の祈りを掘る—

飯盛山瓦経塚と出土瓦経について

飯盛山瓦経塚は、早良平野の西端に面して立地する福岡市西区所在の飯盛山(標高約 384m)山頂に位置します。飯盛神社の上宮跡でもある山頂部には、南北朝期に築城されたと伝わる飯盛山城くろわの郭の跡がよく残っています。

飯盛山の瓦経塚の発見は、今から約 90 年前の大正 13 年(1924) 7 月のことです。山頂で雨乞いの祭事を同神社や地元住民が執り行う際の準備作業中に偶然瓦経を見つけ、さらに地中に埋められていた径および深さ約 1.2m の石囲いの中から多数の瓦経が出土したことが当時の記録に残されています。ただしその後、瓦経の大半は散逸し、現存するものは一部に過ぎません。また、この瓦経塚を造った趣旨や僧侶、役人などの関係者、「永久二年」(1114 年)の年号などを記した願文がんもんと呼ばれる貴重な瓦経も発見されています。

平安時代の後期えいしゅうの永承 7 (1052) 年に仏教が衰えていく末法まつぽうの時代が到来するという思想があり、そのため全国的に経典を地中に埋めて後世に伝える経塚という施設が盛んに造られました。一般的には、紙に書き写したお経を青銅製の容器などに入れて地中に納めますが、少数ながら粘土板にお経を記して焼成する「瓦経」が認められます。これを地中に埋めたものが瓦経塚で、これまでに全国で飯盛山例を含めて 36 例が知られています。製作年代を記したものは 9 例で、11 世紀後半から 12 世紀台にかけて瓦経塚が造られたことがわかっています。

また、本瓦経塚の瓦経は、「妙法蓮華経みょうほうれんげきょう (法華経)」、「無量義経むりょうぎきょう」、「佛説観普賢菩薩行法経ぶつせつかんふげんぼさつぎょうほうきょう (観普賢経)」、「佛説仁王護国般若波羅蜜経ぶつせつにんのうごこくほんにやはらみつぎょう (仁王経)」、「摩訶般若波羅蜜多心経まかほんにやはらみつたしんぎょう (般若心経)」、「佛説阿弥陀経ぶつせつあみだきょう (阿弥陀経)」(現存資料なし)の 6 種の経典を長さ約 23 cm、幅約 19 cm、厚さ約 2 cm の粘土板の両面に書写しています。また、粘土板は枠線と縦罫線によって区切られ、一部を除き、1 行 17 字詰め、片面 10 行の規則性があります。このことから、6 種の経典で瓦経の総数は 297 枚になることが予測できます。また、多くには経巻の巻数やその何枚目かを記した丁附ちようづけが裏面の右上に見られます。

今回の発掘調査の成果について

平成 24 年 3 月に福岡市では、市内での所在が判明している飯盛山出土瓦経 169 点を福岡市の有形文化財(考古資料)に指定しました。大正時代の瓦経塚の発見については当時の記録が残されていますが、正確な位置や瓦経塚の構造についてはわかっていなかったため、この文

化財指定をきっかけに平成 24 年 10 月にその解明に向けての発掘調査を行いました。

その結果、山頂部で比較的軟らかい土で埋められた径約 2 m、深さ 1.5m の穴を発見し、その中から多数の瓦経片のほか、平安時代の土師器、中国からの輸入陶磁器の細片を新たに見つけました。この穴は、出土遺物や土の堆積状況、規模などから平安時代に造られた瓦経塚を大正時代に掘った跡であると判断され、今回その位置を特定することができました。穴の中の大半は、大正時代に埋め戻された土でしたが、底の一部には、平安時代当時のものと推定される硬くしまった土が残っていました。

また、今回の調査では、細片を含め、160 点以上の瓦経が新たに発見され、このうち約 130 点が瓦経塚を大正時代に掘削した穴を埋めた土から出土しました。

経文の大半は判読作業の途中ですが、現在のところ、これまで確認されている 6 種の経典のうち、「法華経」、「無量義経」、「仁王経」が認められました。

この中には、丁附が残るものや願文に記された僧侶の名「徃西」を小口に刻んだものがあります。



飯盛山山頂の現在の様子

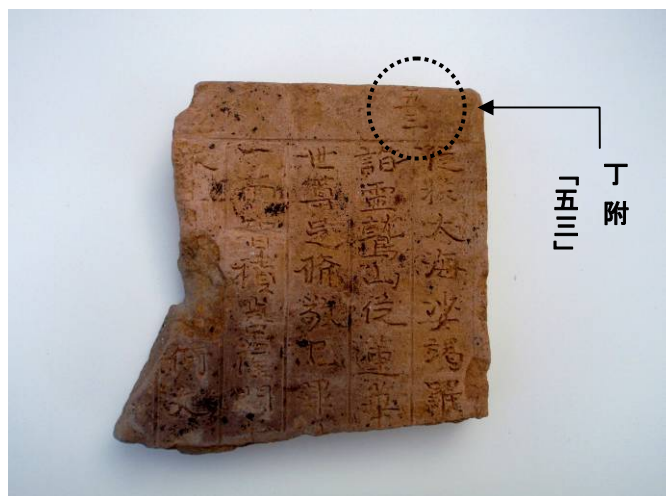


今回の発掘調査の様子

※矢印が瓦経塚の跡



今回の調査で出土した瓦経



丁附が残る瓦経片